

石川県教育支援センター

# やすらぎ加賀通信

第120号 2018/3/15

ブログ更新中 見てね!

かもまるくん  
ですっ。



加賀市標章

記録的な大雪に見舞われた今季の冬でしたが、もうすっかり春の訪れを感じる頃となりました。ピョンチャンオリンピックでは、素晴らしい感動をもらった人も多いでしょうね。来る新しい始まりの時期への応援と捉えて、一步ずつ前へと進んでゆきましょう!

昨年4月にやすらぎ加賀教室に赴任した私たち2名も、はや1年が経過したことに驚きを感じています。皆さんのお力になれたかどうか不安もありますが、今後も加賀教室をどうぞよろしく願います。

なお、以前よりお伝えしておりましたように、加賀教室が移転することとなり何かとご不便をおかけすることになりますが、ご協力をお願いいたします。次回の通信では、新しい教室の様子をお知らせできることを、私たちも楽しみにしております。



平成14年4月から長い間お世話になった、加賀市中央公園管理センターとも、いよいよお別れとなります。

## 土田先生 (心理カウンセラー) の

来年度最初の相談日 4月20日金曜日

時間: 9:30~11:30

場所: 新やすらぎ加賀教室

※相談ご希望の方は予約をお願いします。



## 相談状況

	来室相談	訪問相談	電話相談	合計	通室生徒
2月	5	2	5	12	1
3月	3	0	2	5	1

3月は3月14日現在のデータです

## 教室移転のお知らせ

4月1日より、当教室は石川県立加賀聖城高等学校内に移転することとなりました。加賀聖城高等学校は錦城山のふもとの閑静な場所にあり、JR大聖寺駅からも近く、利便性が増すこととなります。

3月25日より4月初めまで、電話・FAX・Emailは不通となります。お急ぎの際は、加賀聖城高等学校 (TEL 0761-72-0297) へご連絡ください。

\* 新住所: 〒922-0048 加賀市大聖寺馬場町28番地  
石川県立加賀聖城高等学校内

\* TEL・FAX: 0761-72-3220 (変わりません)

\* 新Emailアドレス: yasukaga@m1.ishikawa-c.ed.jp

(4月中旬より開通予定)

\* HP: [やすらぎ加賀教室](#) で [検索](#)

教室の紹介やブログなども掲載されています!



### アクセス <交通案内>

○ JR大聖寺駅より1.0km (徒歩約12分)

○ 加賀温泉バス利用の場合、越前町又は、関町下車0.2km (徒歩3分)

## 加賀フレンドシップ反省会

去る2月21日(水)、加賀聖城高校の校長室において、今年度の活動を振り返る反省会を行いました。

平成17年度より金沢大学原田克巳准教授のお世話で、のべ72名もの学生さんにこの事業に参加してもらい大きな成果を上げています。原田先生からは、「皆さんの報告を聞いて、経験から学ぶことが沢山あったことを嬉しく思う」とのお言葉をいただきました。

今年度のそれぞれの報告から一部を載せて、御礼に代えさせていただきます。

### 【Aさん】

自分の勝手な、不登校の生徒のイメージが変わった。はじめは接し方がわからなかったが一緒に体を動かしたり、話す時も内容をよく聞いたりした。あまり話さない子には自分から積極的に話すの良いと思った。学習には積極的でないこともあったが、活動の時は何かしらには参加しようとする姿勢はあった。その意欲があれば学校に行けるのではないかと思った。のぞみ教室のような施設がないと、そのような体験をすることもないので、子供たちにとって休憩所としての「のぞみ教室」は大切だと思った。



### 【Bさん】

気づいたことは2点で、子供たちの多くは自分の行動を振り返って深く考える力や他の人の目線に立って考える力があるということであった。フリスビーを投げて相手が取れなかった時に、「何やってんだよ」と相手に強い口調で言ったけれど、しばらく後で「よく考えてみたら、俺の投げ方が悪かった」と伝えていた子を見て、自分の行動をよく考えることができずいいなと思った。

また、ある女子が折り紙を教えてくれた時とても複雑で自分はわからなかった。「あなたもわかるでしょ!」と押し付けるのではなく、わからない私のためにどうしたら私に伝わるかを必死に考えてくれた。のぞみ教室では最後に一日を振り返る時間がありそれを発表するので、このような力がつくのではないかと思う。参加して気づくことが多く、有意義だった。

### 【Cさん】

前半の中学校では先生と生徒との距離がとても近いと感じた。生徒を名前呼んで、語り掛けるような声かけをしている。クラスの雰囲気がよくて、クラス全体が仲良く感じた。支援員の先生方と話して、一人一人に応じた支援をしているとわかった。後半はのぞみ教室に行ったが、人数が多くて驚いた。学年が違ってもみな仲良くしていて、異学年との関係性ができているのはいいなと思った。主に女子2名と関わったが、最初コミュニケーションが取れなかったが、自分から積極的に関わっているうちに話してくれるようになった。

### 【Dさん】

相談室で先生方の様子を見てると、とても多忙で支援は大変そうだった。高校生は義務教育ではなく、単位を取得するためには時間の制約もあり、確実に支援をするのは大変だと思った。不登校の生徒が出たときの先生方へのサポートは、何があるのかなと思った。また、活動を通して、先生と先生、先生と生徒、先生と保護者などの様々な面でのつながりが、支援の現場では一番力を持つのだと分かった。



### 【Eさん】

相談された時にどんな声掛けをしたらよいか分からなかった。何もアドバイスを返してあげられず、その後相談室の先生のとこに行った。先生から生徒の悩みを解決するのが私たちの役割でなく、解決はその生徒自身がするのだと聞いた。確かに先生方を見ると、生徒には「こうしなさい」などと言わず、「何がしたいの?」と訊いていた。あくまでもサポート役なんだと改めて思った。関わった生徒から「高校に行って新しい人間関係を作っていきたい」と最後の日に訊くことができ嬉しかった。

### 【Fさん】

いろいろな生徒と関わった中で、2つのことを学ぶことができた。

1つは児童との関係の築き方である。なかなか会話が続かない時や勉強の時、児童の機嫌が悪くイライラしている時なども無理に落ちつかせるのではなく、好きなことやパズル、カードゲームなどでだんだんと生き生きと活動でき、楽しいという気持ちを共有できたことがよかった。2つ目は、児童の頑張りを認めること。活動を通して2つの大切さを学ぶことができた。児童がどう変わったかわからないが、少しでも来てくれてよかったと感じてもらえたら嬉しいと思った。

**ボランティアを受け入れて頂いた学校の先生方、各機関の担当の皆様、ありがとうございました。また、反省会にご参加頂きました皆様、ありがとうございました。来年度も、どうぞよろしくお願いいたします。**